

福井県医師会

だより

第617号 平成24年(2012)11月



晩秋の三国海岸

福井市 吉村 信

表紙写真説明：晩秋の三国海岸

福井市 吉村 信

秋の浜辺を散策すると、夏の海水浴の喧噪との対比から来るものか、寂寥感を殊更感じさせられる。秋風が北方から吹き、波頭が高くなると、その感は一層強くなる。来たるべく冬に備えてか、木々も葉を落とし、緊張感のある風景が展開される。宿側より、雄島と日本海を、逆光を利用してモノクローム調にまとめてみた。

北吹けば 波頭高し 冬近く (北：北風のこと)

## 醫 縫 録

# 地域医療の維持とコンビニ受診

公立丹南病院長 伊 藤 重 二



H24年10月、在宅棟等が完成し、公立丹南病院がグランドオープンできました。関係いただいた医師会の諸先生方には、御礼申し上げます。なお、新棟が完成した本年5月に、白崎信二、前院長が管理者となり、私が院長職を拜命しました。前任者同様、これからも地域医師会と密に連携し、丹南の地域医療を担うべく努力していきたいと思っております。

今回、機会を与えられましたので、地域医療とコンビニ受診について拙文を投稿させていただきます。

“コンビニ受診”という言葉の意味は、医療従事者なら十分理解されていると思っております。しかし、世間一般の方への浸透は、まだまだ低いのが実情です。一時は、マスコミなどでかなり取り上げられましたが、最近では減ってしまいました。しかし、時間外医療を担当する勤務医や診療所医師が、かなり無理をして医療を行っている事実について、もっと社会的な焦点をあて続けるべきだと思います。最近放映された、名田庄診療所医師を題材にしたNHKドラマ「ドクター」には、その事が一部取り上げられていました。

当院では、2009年4月～2010年5月までの1年2ヶ月間、“コンビニ受診”を定義して、医局員全員で、時間外救急でのコンビニ受診率、およびそれを減らすための方策について検討してみました。具体的には、①症状が前からあって時間内に受診できたにも関わらず、時間外受診した場合、または、②どうみても軽症で、翌日受診でもかまわないような場合、と定義しました。その結果は、当直医の主観も入りますが、①、②の割合は、各10%程度でした。①、②重複もあるため、全体では20%前後です。

このコンビニ受診行動を減らすにはどうすべきか。医師が診察室で説教する場面も想像できます。が、そういった行動は、改善どころか、翌日に院長や事務長にクレームの電話や投書となるのが関の山です。そこで、当院では、院内での周知活動に加え、鯖江市および市医師会のバックアップのもと、地域に出向いての講演(出前講座)を十数回行いましたが、短期間の1病院だけの努力では、有効な成果は得られませ

んでした(以上の結果は、月刊地域医学25(2):154-164,2011にまとめてあります)。

一方で、コンビニ受診にもそれなりの理由はあります。社会的に弱者であるほど、時間内受診ができない方が多いように思えます。また、医療の現場を理解していないがためのコンビニ受診もあります。しかし、時間外を悪用する真のコンビニ受診者も多いのが現状です。

ではどうしたら、コンビニ受診者を減らし、救急患者への有効な対応ができ、時間外も含めて地域医療を健全に維持できるでしょうか?

これには、当直体制を含めた抜本的な問題解決はもちろんです。しかし、まず実現可能な事は、医療側から、行政やマスコミなどを巻き込んで、“医療資源は限られており、医療の実態を知った上での国民参加型の医療”の啓蒙活動を展開し、かつ継続する事ではないかと思っております。

実は、3年前の新型インフルエンザ流行時、熱が出たら早めに対処する放送がよくなされました。時間内受診が増え、時間外のコンビニ受診率は一過性ですが減りました。また、当時、地方病院の診療科閉鎖などの危機的状況がある一方で、兵庫県の柏原病院や千葉県の東金病院での住民参加型による地域医療再生がよく報道されました。その影響か、当院のコンビニ受診率も、一時期は明らかに減りました。報道の効果はあったと思います。一方、報道の減少とともに、最近はやや増加傾向です。

医師会も、是非、国民が医療に参加し協働で病気を治し健康維持してゆく機運を、今後も高めていってほしいと思います。私たち医師個人も、施す医療から参加型医療への啓蒙が益々必要と考えます。

公立丹南病院も、今後はそういったソフト面を充実しながら、微力ですが、地域医療を支える病院として機能していきたいと思っております。これからも、よろしくお願ひ申し上げます。